

■ 資料

## 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2022)

田 中 秀 男

(関西大学)

並 木 崇 浩

(愛知淑徳大学学生相談室)

青 木 剛

(南山大学)

### 要約

本論文は、2022年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」ごとに、A.書籍、B.研究論文、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチ、文献リスト

### はじめに

坂中および田中・並木・青木は、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチの研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の1つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集― 九州大学心理臨床研究,

- 17, 113-121.
2. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（～1969） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
  3. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1970～1974） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
  4. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
  5. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984） 福岡教育大学紀要（教職科編）, 48, 195-214.
  6. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989） 福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
  7. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 3, 13-51.
  8. 坂中正義 2000 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 4, 13-55.
  9. 坂中正義 2001 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
  10. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001） —第Ⅰ部：来談者中心療法— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
  11. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001） —第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
  12. 坂中正義 2003 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
  13. 坂中正義 2004 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
  14. 坂中正義 2005 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
  15. 坂中正義 2006 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
  16. 坂中正義 2007 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
  17. 坂中正義 2008 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に

- 関する文献リスト (2007) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
18. 坂中正義 2009 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2008) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.
  19. 坂中正義 2010 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2009) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
  20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2010) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
  21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2011) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
  22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2012) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
  23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2013) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.
  24. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2014) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 14, 231-255.
  25. 坂中正義 2016 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2015) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 15, 105-134.
  26. 坂中正義 2017 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2016) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 16, 111-139.
  27. 坂中正義 2018 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2017) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 17, 97-130.
  28. 坂中正義 2019 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2018) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 18, 115-137.
  29. 坂中正義 2020 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2019) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 19, 123-149.
  30. 坂中正義 2021 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2020) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 181-206.
  31. 田中秀男・並木崇浩・青木剛・坂中正義 2022 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2021) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 22, 65-84.

本論文では、これらの論文の続編として、2022年の日本におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

## 方法

2022年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」の4部に分類し、それぞれ、A.書籍、B.研究論文<sup>1</sup>、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2022年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまって、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

## 第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング

「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2022年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は1本であった。「B.研究論文」は11本であった。「C.学会発表」は10本で、そのうち2つがシンポジウムであった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」は1本であった。

2021年における「来談者中心療法」の特徴は、セラピストの成長や養成を論じた研究（A-7、A-8、B-3、B-6）、「共感」概念を再検討した論文（A-7、A-8、B-3、B-6）、他学派との比較検討や共存を論じた研究（A-2、A-5、B-9）の本数が増えたことであろう。

---

<sup>1</sup> 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

## A.書籍

1. 中田行重 2022 臨床現場におけるパーソン・センタード・セラピーの実務把握感sense of gripと中核条件 創元社

## B.研究論文

1. 朝日素明 2022 生徒指導の理論と応用実践の検討-児童生徒理解を中心に, 摂南大学教育学研究, 18, 79-90.
2. 金子周平 2022 臨床心理学・最新研究レポート シーズン3 (第35回) うつ病への認知行動療法とパーソンセンタード・カウンセリングの最適処方における機械学習アプローチの適用 臨床心理学, 22(4), 521-525.
3. 木下一雄 2022 アフターコロナで必要とされるゆらぐことができる心の支援: 中・高校生徒とのスクールカウンセリングから. まなびあい, 15, 163-168.
4. 松田治貴・河崎俊博・中田行重 2022 パーソン・センタード・アプローチの認知度についての概括的調査. 関西大学心理臨床センター紀要, 13, 57-65.
5. 本山智敬 2022 ナラティヴをベースとした援助関係における対等性を生み出す対話 福岡大学臨床心理学研究, 21, 37-45.
6. 中田行重 2022 Client as Active Self-Healerモデルとパーソン・センタード・セラピー: 医療モデルとの比較 関西大学心理臨床センター紀要, 13, 47-56.
7. 並木崇浩 2022 パーソン・センタード・セラピーのトレーニングにおける構成素と課題, 関西大学心理臨床センター紀要, 13, 47-56.
8. 白井祐浩 2022 セラピスト多様性モデルとセラピスト・センタード・トレーニング 一個別要因を含めた心理療法の捉え方一. 志學館大学人間関係学部研究紀要, 43, 33-58.
9. 杉原保史 2022 二者心理学における共感の再概念化 -関係論的な心理療法における治療関係-. 京都大学学生総合支援機構紀要, 1, 43-55.
10. 登張真穂 2022 同一視と共感がヒトの発達において果たす役割について, 生活科学研究, 44, 43-55.
11. 山田俊介 2022 カウンセリングと人間観. 香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻心理臨床相談室紀要, 1, 45-51.

## C.学会発表

1. 福島和郎 2022 共感的理解を伝える対話構造と言語表現の特徴 日本心理臨床学会第41回大会研究発表集, 31.
2. 伊藤義美 2022 学会賞受賞記念講演: 私と人間性心理学 パーソン・センタード・アプローチ (PCA) とフォーカシング指向アプローチ (FOA) を中心に 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 20.
3. 川崎俊博・永野浩二 2022 臨床家のPersonal DevelopmentからみたEGとフォーカシング体験の意義 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発

表論文集, 44.

4. 児玉龍治 2022 PCAの源流についての検討 –正木正によるロジャーズ理論のわが国への導入をめぐる– 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 40.
5. 永野浩二 2022 自分自身になる to be himself ということ –パーソンセンタード・カウンセリングの一事例– 日本心理臨床学会第41回大会研究発表集, 33.
6. 永野浩二・河崎俊博・益田啓祐 2022 自主シンポジウム：臨床家としての自己の成長過程を考える 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 34.
7. 中田行重・滝澤理奈子・白井祐浩・押江隆・永野浩二・飯長喜一郎 2022 自主シンポジウム：PCA実践家養成に関する問題意識と訓練について –PCAの教育の本質部分はどこにあるのか？– 日本心理臨床学会第41回大会研究発表集, 364.
8. 並木崇浩・白崎愛里 2022 多元的アプローチに対するDavid Murphyらの論駁から再考するPCT I –論争における概念的整理– 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 45.
9. 押江隆・宮本麻梨紗・吉永伶奈 2022 オープン・ダイアログにおけるパーソン・センタード・セラピストの課題 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 49.
10. 白崎愛里・並木崇浩 2022 多元的アプローチに対するDavid Murphyらの論駁から再考するPCT II –Levinasによる他者性の観点から 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 50.

#### D.翻訳

〔該当文献なし〕

#### E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F.書評

1. 宮田周平 2022 書評 デイブ・メアンズ, ミック・ターパー著 中田行重・斧原藍訳 『「深い関係性」がなぜ人を癒すのか: パーソン・センタード・セラピーの力』 . 人間性心理学研究, 40(1), 51-54.

付：同リスト（～2021）

〔第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング〕の追録

#### A.書籍

1. 諸富祥彦 2021 カール・ロジャーズ：カウンセリングの原点 角川選書

#### B.研究論文

〔該当文献なし〕

#### C.学会発表

〔該当文献なし〕

#### D.翻訳

〔該当文献なし〕

#### E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F.書評

〔該当文献なし〕

### 第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法

「第Ⅱ部：フォーカシング指向心理療法・体験過程療法」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2022年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は1本であった。「B.研究論文」は41本であった。「C.学会発表」は14本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D.翻訳」は1本であった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」は3本であった。

2022年における「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の特徴は、フォーカシング的態度（FMS）を応用した研究（B-1、B-2、B-9、B-13、B-32、C-8、C-9）が数多く見られることであろう。

なお、2022年は「人間性心理学研究」に1本（B-5）、関連文献が掲載された。また、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の文献は、日本フォーカシング協会ニューズレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

#### A.書籍

1. 内田利広 2022 フォーカシング指向心理療法の基礎～カウンセリングの場におけるフェルトセンスの活用 創元社

## B.研究論文

1. 青木剛 2022 研究者の数珠繋ぎ：「フォーカシングとの出会いとFMSを使った研究について」 The Focuser's Focus, 25(2), 8.
2. 土井晶子・森永康子・清末有紀 2022 成人における「フォーカシングの態度」と他者とのかかわり方 ―自己効力感, ソーシャル・スキル, Locus of Control の関係について― 神戸学院大学心理学研究, 5(1), 1-7.
3. 福盛英明 2022 研究者の数珠繋ぎ The Focuser's Focus, 25(3), 11.
4. 平野智子 2022 認知神経リハビリテーションへのフォーカシング適用可能性についての検討 認知神経リハビリテーション, 21, 71-84.
5. 池見陽 2022 体験過程モデル：あるフォーカシング・セッションから言い表される論考 人間性心理学研究, 39(2), 131-141.
6. 伊藤義美 2022 フォーカシング指向ドリームワークによる自己探究のプロセス 人間と環境, 17, 1-24.
7. 伊藤義美 2022 フォーカシング指向ドリームワークの活用について 人間と環境 16(0), 1-21.
8. 泉屋昌平 2022 自由投稿：「『俳句でcrossing～フォーカシング的俳句』を出店して」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
9. 北川眞羽・押岡大覚 2022 フォーカシングの態度の変化を指標とした学部公認心理師候補生による試行カウンセリングに関する一考察 聖泉論叢, 30, 35-49.
10. 小林浩明・若杉美穂 2022 初任期日本語教師の感じる「面白くなさ」と日本語教師の資質・能力-TAEリフレクションによる分析からの考察 九州市立大学国際論集, 20, 1-11.
11. 古井戸祐樹 2022 ユージン・ジェンドリンの「感じられた意味」における「隠喩」と「把握」の機能的意義：デューイの「示唆」の出現の再解釈 日本デューイ学会紀要, 62, 1-10.
12. 小坂叔子 2022 自由投稿：「『ジェンドリン哲学や仏教を体験的に語り合おう@沖縄』に参加して」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
13. 栗野理恵子 2022 フォーカシングの介入が内受容感覚の敏感さとフォーカシングの態度に及ぼす影響 皇學館大学紀要, 60, 105-88.
14. 三村尚彦 2022 フォーカシングと認知神経リハビリテーション：メタファーが果たす役割 認知神経リハビリテーション, 21, 21-32.
15. 三村尚彦 2022 フェルトセンスとは、身体的なフィーリングなのか 認知神経リハビリテーション, 21, 33-45.
16. 光石歩乃佳・池見陽 2022 「観我フォーカシング」では何が起きているのか：セッション・レポートからの考察 関西大学心理学研究, 13, 17-27.
17. 三宅麻希 2022 研究者の数珠繋ぎ：「私のフォーカシング研究のこれま

- でとこれから」 The Focuser's Focus, 24(4), 2.
18. 三宅麻希 2022 フォーカシングをベースとした小学生対象のグループワークにおけるプログラムの検討 ―からだの感覚に気づくことから自己肯定感を育む試み― 四天王寺大学紀要, 70, 197-212.
  19. 三宅麻希 2022 言語がメタファーとして機能するためのセラピストの関わり：フォーカシングを認知神経リハビリテーションに適用するための提案 認知神経リハビリテーション, 21, 61-69.
  20. 宮本省三 2022 意識経験の言語(1)認知神経リハビリテーションとフォーカシング 認知神経リハビリテーション, 21, 101-113.
  21. 宮本省三 2022 意識経験の言語(2)認知神経リハビリテーションとフォーカシング 認知神経リハビリテーション, 21, 115-126.
  22. 宮野由紀 2022 JCFA子どもとフォーカシング「JCFAの活動とアラカンからのスタートに思うこと」 The Focuser's Focus, 25(1), 4.
  23. 永野勇二 2022 フォーカシングをめぐる私の旅：大学院時代から今日に至るまで 東筑紫短期大学研究紀要, 53, 211-217.
  24. 中屋美紀・永山智之 2022 箱庭フォーカシングが気分に与える影響に関する量的・質的検討 箱庭療法学研究, 34(3), 3-12.
  25. 西中千保 2022 自由投稿：「つどいでまぶいをひろう」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
  26. 仁田公子・土江正司 2022 国際交流コーナー：フォーカシングと仏教の交差 ～ Global Sangha のオンラインNew Year の集いにて～ The Focuser's Focus, 24(4), 2.
  27. 仁田公子 2022 自由投稿：「煩惱と“願い”」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
  28. 大月かおり 2022 自由投稿：「沖縄の年次大会に参加しました」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
  29. 岡村心平 2022 自由投稿：「欠如としてのフェルトセンス」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
  30. 岡村心平 2022 心の健康教育とメンタルヘルス・リテラシー ～「予備」のレトリックからフォーカシングを捉え直す～ 神戸学院大学心理学研究, 4(2), 79-89.
  31. 岡村心平 2022 予感する身体：治療文化論的考察 関西大学東西学術研究所紀要, 55, 147-185.
  32. 高沢佳司 2022 フォーカシング的態度における諸因子と反復性ととの正の相関に関する一考察 ―私的自己意識および自己没入を上位概念としたモデルの検討― 皇學館大学紀要, 60, 87-77.
  33. 竹下健太 2022 フォーカシングによる夢分析を、ストーリーのある芸術作品の鑑賞に応用する試み 平成音楽大学紀要, 22(1), 29-36.

34. 得丸智子 2022 留学生はインターンシップをどのように経験したか — インタビューのTAE (Thinking At the Edge) による分析— 国際地域学研究, 25, 197-220.
35. 土江正司・高瀬健一・望月秋一 2022 国際交流コーナー:オンラインミーティング ～デイビッド・ブレイジャー氏を迎えて～ The Focuser's Focus, 25(2), 8.
36. 土江正司 2022 自由投稿:「出店『ジェンドリン哲学や仏教を体験的に語り合おう - 煩惱とフェルトセンス-』」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
37. 宮川睦子 2022 自由投稿:「沖縄×仏教企画に参加して」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
38. 津田有貴子 2022 自由投稿:「沖縄を感じて」 The Focuser's Focus, 25(3), 11.
39. 矢野キエ 2022 JCFA子どもとフォーカシング「身体に感じられる気持ち表現できること」 The Focuser's Focus, 24(4), 2.
40. 矢野キエ 2022 身体的感覚に注目した関わり - 体験過程の視点より- 大阪キリスト教短期大学紀要, 63, 36-50.
41. 吉水ちひろ・小泉瑠菜 2022 インタラクティブ・フォーカシングで身につける共感的コミュニケーション:心理臨床初学者の傾聴スキルの様相 仁愛大学附属心理臨床センター紀要, 17, 45-57.

### C.学会発表

1. 星加博之 2022 体験過程の干渉作用 —過去イメージにアクセスした事例をもとに— 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 47.
2. 飯島秀治 2022 自主シンポジウム:概念化以前の、暗在的な身体知の力の検証とその応用可能性 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 31.
3. 小坂淑子・宮腰辰男・諏訪智子 2022 コロナ禍における大学生の心理社会的健康とレジリエンス —コミュニティ・ウェルネス・フォーカシングの視点を用いた支援の模索— 日本心理臨床学会第41回大会研究発表集, 213.
4. 越川陽介・岡村心平 2022 コロナ禍における労働者世代のフォーカシング的経験の特徴とワークファミリーバランスとの関連の検討 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 67.
5. 三宅麻希 2022 不登校傾向を呈した高校生とのフォーカシング指向心理療法 —体験過程の多様なシンボル化とフェルトセンスの性質を教えるセラピストの関わりを中心に— 日本心理臨床学会第41回大会研究発表集, 82.
6. 三宅麻希・小坂淑子・青木剛・木村正志・辰巳朋子・岡村心平 2022 自主シンポジウム:フォーカシングの心理臨床の未来への貢献 —身体とプロセ

- スへの注目をめぐってー 日本心理臨床学会第41回大会研究発表集, 376.
7. 三宅麻希 2022 フォーカシング学習者のフォーカシング活用状況について  
の予備的研究 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 64.
  8. 岡村心平・越川陽介 2022 年齢・性別・業種・役割別にみた日常における  
フォーカシング的経験の特徴：FES-TRを用いたウェブ調査から 日本人間性  
心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 66.
  9. 押江隆 2022 フォーカシング的態度からみたメンタライゼーションおよび  
PTG 日本心理臨床学会第41回大会研究発表集, 81.
  10. 酒井久実代 2022 インタラクティブ・フォーカシング指向カウンセリングの  
効果の検討 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 46.
  11. 末武康弘 2022 自主シンポジウム：ジェンドリン『プロセスモデル』—実  
践哲学の息吹 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 32.
  12. 田村隆一 2022 大会主催ワークショップ：夢フォーカシング 日本人間性  
心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 23.
  13. 田中秀男 2022 奨励賞受賞記念講演：「今ここ」にある過去 日本人間性  
心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 19.
  14. 矢野キエ・吉良安之 2022 感じられた感覚が言い表されていくプロセスの  
検討 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 39.

#### D.翻訳

1. Gendlin, E.T. (末武康弘, 宮田はる子, 吉森丹衣子, 木村喜美代, 小林智, 小  
田友理恵, 瀬戸恵理, 高沢佳司訳) 2022 パターンを超えて思考すること：  
身体、言語、状況：Gendlin, 1991 (その4) 現代福祉研究, 22, 117-129.

#### E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F.書評

1. 近田輝行 2022 書評：『「私」の言葉を紡ぐ フォーカシングとコラージュ』  
The Focuser's Focus, 24(4), 2.
2. 濱野清志 2022 書評 山田美穂著『心理臨床 セラピストの身体と共感：ダ  
ンス／ムーブメントとフェルトセンスの活用』 人間性心理学研究, 40(1), 55-  
59.
3. 上村英生 2022 書評：『フォーカシング指向心理療法の基礎 カウンセリン  
グの場におけるフェルトセンスの活用』 The Focuser's Focus, 25(3), 11.

## 第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチなどのパーソンセンタードなオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した<sup>2</sup>。

2022年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は3本であった。「C.学会発表」は4本であった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

### A.書籍

〔該当文献なし〕

### B.研究論文

1. 板東充彦・田中勝則・金子周平・高松真理・下田節夫・本山智敬・野島一彦 2022 シェアド・リーダーシップ概念による“権力”の検討 跡見学園女子大学心理学部紀要, 4, 17-32.
2. 金子周平 2022 グループ構造の基本要素とそれを通じた体験についての考察 九州大学総合臨床心理研究, 13, 99-104.
3. 野島一彦・岡村達也・伊藤義美・西村馨・野末武義・板東充彦 2022 公認心理師養成におけるグループ経験の必要性. 跡見学園女子大学心理学部紀要, 4, 1-16.

### C.学会発表

1. 菱谷康代 2022 ベーシックエンカウンター・グループの体験報告とその考察 -自己理解の深まりとオンライン形式の検討- 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 52.
2. 石田妙美・三國牧子 2022 オンライン・ベーシック・エンカウンター・グループの効果に関する研究 -個人過程とBEG効果測定尺度より- 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 63.
3. 小池有紀・内田尚宏・首藤和佳子・植田峰悠・本山智敬 2022 ポスター発表：エンカウンター・グループの幹事役割に関する一考察 -ファシリテーターの視点を通して- 日本心理臨床学会第41回大会研究発表集, 211.
4. 大下智子・法眼裕子 2022 自主シンポジウム：オンラインEGカフェに参加しませんか in 41回大会 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表

---

<sup>2</sup> なお、体験過程療法に特化したグループ・アプローチは、第Ⅱ部へ収録されている。

**D.翻訳**

〔該当文献なし〕

**E.海外文献紹介**

〔該当文献なし〕

**F.書評**

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2021）

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

**A.書籍**

〔該当文献なし〕

**B.研究論文**

1. 下田節夫 2015 話題提供 ベイシック・エンカウンター・グループ(BEG)について 人間関係研究, 14, 1-6

**C.学会発表**

〔該当文献なし〕

**D.翻訳**

〔該当文献なし〕

**E.海外文献紹介**

〔該当文献なし〕

**F.書評**

〔該当文献なし〕

**第Ⅳ部：その他**

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部に

は分類されないものを収録した。

2022年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は12本であった。「C.学会発表」は2本であった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2022年における「その他」の特徴は、PCAGIPに関する研究（B-1、B-2、B-5、B-6）の数が前年度に続き充実していることであろう。

## A.書籍

〔該当文献なし〕

## B.研究論文

1. 藤中隆久 2022 学校の事例検討会に PCAGIP 法を適用する事の考察. 熊本大学教育実践研究, 39, 127-134.
2. 波多江洋介・村松健司・坪井裕子・塩谷隼平・樋口亜瑞佐 2022 児童養護施設職員等を対象とした PCAGIP 法の実践報告. 白百合女子大学発達臨床センター紀要, 25, 38-42.
3. 姜信善・坂本穂香 2022 本来感の捉え方に関する予備研究. 富山大学人間発達科学部紀要, 16(2), 143-157.
4. 楠本和彦 2022 坂中さんと組みたかったと今、思うこと 人間関係研究, 21, 109
5. 南雅則 2022 PCAGIP 法による教育相談校内研修：事例検討をどう進めればよいか. 指導と評価, 68(6), 34-36.
6. 宮本純子 2022 小学校における PCAGIP 法を用いた事例検討の一考察. 近畿大学九州短期大学研究紀要, (52), 153-166.
7. 本山智敬・村山正治 2022 学校現場における PCA グループの継続的かつ全学的な取り組み ―そのための条件と基本的視点―. 東亜臨床心理学研究, 21, 3-9.
8. 村瀬智子・小林洋子 2022 第 6 章 ポストパンデミックとケア共創看護学. Journal of Integrated Creative Studies, 2022, 1-22.
9. 永野浩二・河崎俊博・益田啓裕・荒木浩子・宮川裕基 2022 心理臨床家の Personal Development からみたエンカウンター・グループとフォーカシング体験の意義 追手門学院大学心の相談室紀要, 19, 28-42.
10. 新村信貴 2022 ファミリー・グループの臨床心理学的理解のための基礎的考察 九州大学総合臨床心理研究, 13, 113-119.
11. 山本真也・隈元みちる・森本哲介・松本剛 2022 ポジティブな事例検討のロールプレイによる事例検討会へのイメージの変容に及ぼす効果の検討. 兵庫教育大学 研究紀要, 60, 83-90.
12. 吉村晋平・多田淑央・益田啓裕 2022 心理職に必要な学びとその教育. 心

理学の諸領域, 11(1), 63-67.

#### C.学会発表

1. 村山正治・村山尚子 2022 大会主催ワークショップ：新しい事例検討法ピカジップ (PCAGIP) 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 22.
2. 新村信貴 2022 臨床心理学に貢献し得るファミリー・グループ研究の方向性の検討 - 家族の体験共有に焦点を当てて - 日本人間性心理学会第41回大会プログラム・発表論文集, 42.

#### D.翻訳

〔該当文献なし〕

#### E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F.書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2021）「第Ⅳ部：その他」の追録

#### A.書籍

〔該当文献なし〕

#### B.研究論文

1. 小野真由子 2020 事例提供者の発言に着目したPCAGIP法における体験の特徴 関西大学心理臨床センター紀要 (11), 67-76.

#### C.学会発表

〔該当文献なし〕

#### D.翻訳

〔該当文献なし〕

#### E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

## F.書評

〔該当文献なし〕

## 統計

2022年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にTableに示した。2022年に公刊された関連文献は74篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」12篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」46篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」3篇、「その他」12篇）であった<sup>3</sup>。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は8530篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」3627篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」2593篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1905篇、「その他」405篇）となった。

## お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者らまで御連絡願えれば幸いです。

連絡先 〒466-8673 愛知県名古屋市昭和区山里町18  
南山大学 人文学部 青木剛  
E-mail: pca.biblio@gmail.com

---

<sup>3</sup> 学会発表は合計に含まれていない。

Table 日本におけるバーンソンセンタード・アプローチに関する発行文献数 (2022.12.31現在)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計														
来読者中心療法	2	7	13	35	14	15	13	9	20	15	8	14	4	6	1	3	1	2	0	1	1	184	
バーンソンセンタード・カウンセリング (含: 基礎概念)	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	53	35	44	1	0	0	2	2	2	2	0	570	
遊戯療法も含む	0	0	0	1	2	9	19	15	3	11	13	15	8	8	1	2	2	2	2	2	0	0	117
論文: 一般	0	5	91	68	67	114	149	229	186	317	348	281	282	46	17	37	22	16	7	6	11	2269	
翻訳: 単行本	1	3	3	8	5	3	4	1	0	10	12	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	56
翻訳: 章	0	0	41	106	3	6	8	7	6	13	59	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	257
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8	2	7	3	1	0	3	1	0	0	28
書評	0	0	0	1	2	0	2	9	4	6	15	13	57	22	3	0	5	2	3	1	0	1	146
参考: 発表: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	9	11	2	3	3	3	2	1	5	2	1	55	
参考: 発表: 一般	0	5	28	19	9	16	2	4	18	21	38	27	45	5	3	13	2	10	6	4	8	283	
合計 (学会発表は除く)	6	20	158	247	138	190	249	288	334	489	506	423	342	72	22	48	29	28	11	14	13	3627	
体験過程療法	0	0	0	1	0	0	2	0	3	8	6	8	6	3	3	0	0	2	0	0	2	1	45
フォーカシング指向心理療法 (含: 体験過程の基礎概念)	0	0	0	0	0	2	5	4	5	17	37	18	7	29	0	0	0	0	2	0	0	126	
論文: 特集	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	21	2	0	0	3	2	0	0	2	0	45	
論文: 一般	0	0	0	0	1	24	66	99	130	192	401	376	368	71	74	88	62	55	32	35	32	2159	
翻訳: 単行本	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	5	8	3	0	2	0	0	0	0	1	0	27	
翻訳: 章	0	0	2	5	2	7	8	3	1	5	5	5	12	2	4	6	2	3	2	2	1	77	
海外文献紹介	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	2	0	0	1	1	2	0	0	1	0	12	
書評	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	17	5	8	2	0	0	0	4	3	102	
参考: 発表: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7	6	17	2	5	4	3	3	0	3	3	3	59	
参考: 発表: 一般	0	0	0	0	0	5	11	28	41	45	60	139	117	4	14	33	5	10	14	7	14	588	
合計 (学会発表は除く)	0	0	2	7	6	37	81	116	159	267	461	439	439	81	91	100	98	84	57	43	46	2593	
ベリック・エンカウンター・グループ (含: グループカウンセリング)	0	1	0	1	0	1	2	1	4	3	2	4	6	2	0	0	1	0	1	0	0	29	
書籍: 章	0	0	1	1	4	19	16	15	30	29	14	4	10	1	0	0	1	1	0	0	0	146	
論文: 特集	0	0	0	0	0	3	0	1	8	1	4	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	21	
論文: 一般	0	0	3	0	37	121	247	206	283	155	216	145	113	37	8	19	13	14	13	2	3	1635	
翻訳: 単行本	0	0	0	0	0	3	4	2	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
翻訳: 章	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
書評	0	0	0	0	0	2	0	1	2	13	3	6	7	5	4	1	0	0	0	0	0	44	
参考: 発表: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	3	6	6	1	2	2	1	2	0	1	29	
参考: 発表: 一般	0	0	1	0	28	40	44	54	42	29	45	55	43	5	14	10	9	9	8	2	3	441	
合計 (学会発表は除く)	0	1	4	2	46	149	270	226	339	195	247	169	134	45	9	19	15	15	2	3	1905		
その他 (教育・経営など)	0	0	0	4	2	2	0	0	3	1	5	7	7	2	1	0	0	0	1	0	0	35	
書籍: 章	0	0	0	2	0	0	2	0	5	6	3	1	11	1	0	0	0	0	0	0	0	31	
論文: 特集	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	1	6		
論文: 一般	0	0	4	1	6	13	19	10	25	13	45	39	52	9	2	7	10	7	3	7	11	283	
翻訳: 単行本	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	12	
翻訳: 章	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2		
書評	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	5	2	4	3	1	2	0	0	0	0	0	19	
参考: 発表: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	0	2	1	2	1	3	0	18	
参考: 発表: 一般	0	0	4	13	10	15	26	12	34	20	70	50	78	16	5	9	10	9	5	7	14	405	
合計 (学会発表は除く)	6	21	168	269	200	391	626	642	866	971	1284	1081	993	214	127	176	152	136	88	66	88	8530	
総計																							

(注) テータは表中による一連の「日本におけるバーンソンセンタード・アプローチ」に関する文献リスト「J」シリーズに基づいた。